

看護

コロナ禍でICUに入室する重症患者の家族が抱くニーズ

其田 圭耶 佐藤 志保 豊浦 圭織
明堂 靖史 佐藤 七海 三好のぞみ
市川 浩史 永川 陽子 山本 容子

Key words : コロナ禍 —— 面会制限 —— ニーズ

要 旨

新型コロナ禍の面会制限による家族の不安軽減を図るために、ICUにおける挿管管理下の患者家族へインタビューを実施。家族のニーズを言語化するためカテゴリーへ分類した結果、接近と情報のニーズが強かった。家族が抱くニーズを満たすためスタッフ間で共通認識することが重要となる。面会制限で接近のニーズを満たす事が出来ない代わりとして、患者の状態をイメージしやすいように実際に行われている治療や看護を家族へ具体的に伝えるなど、面会に替わる情報提供のシステム構築を今後検討していく必要がある。

はじめに

現在A病院では新型コロナウイルスの感染拡大に伴い面会制限が行われており、家族はインフォームドコンセント等の機会がなければ面会で患者の様子を知ることができない状態が続いている。

定期入院で手術予定の患者は事前に術後経過や面会制限について説明を受け術後経過が問題なければICU入室期間は比較的短く、退室後に自分で家族へ連絡ができる。

しかし、突然重篤な病気の発症や事故等により危機的状況に陥り緊急入院となった患者の家族は、何の準備や予測もできず混乱する中、面会制限の説明を受けても把握できていない様子も見受けられている。

入院している患者の家族のニーズを把握することで適切な情報提供を行う事が出来ると考え、本研究を実施した。

目 的

新型コロナウイルスの影響で面会制限が行われていることに加え、ICUではME機器や薬剤により管理されていることが多く家族と意思疎通を図るまでに時間を要する場合がある。緊急入院に伴う不安に加え面会制限中の今、入院時の家族のニーズを言語化することで、効果的な家族ケアについて検討した。

対象と方法

- 研究期間：令和4年9月～11月
- 研究対象：緊急入院となり、挿管管理、ICU入室後意思疎通の取れない患者の家族。
- データ収集方法：インタビューガイド（表1）を作成、それを用いて緊急入院となった患者の家族に対して半構造的面接法を実施。許可を得てICレコーダーへインタビュー内容を録音した。
- データ分析方法：インタビューで得られた内容の中から、家族の思いが表出されている部分をコード化し、類似しているものを集めカテゴリーへと分類した。
- 倫理的配慮：インタビュー開始前に本研究への参加は自由意思であり、拒否する権利があること、研究途中、また研究終了後も辞退可能であることを説明し、同意を得てから実施した。

表1 インタビューガイド

- | |
|---|
| Q1. ご家族が緊急入院することになり、どのように感じていますか。 |
| Q2. ご家族が緊急入院になったことで、不安なことや心配なことはどのようなことですか。 |
| Q3. コロナ禍で、基本的に面会制限があることについてどのように感じていますか。 |
| Q4. 入院中、看護師に対し、どのようなことを望みますか。 |

市立函館病院 3階南病棟ICU

〒041-8680 函館市港町1-10-1 其田 圭耶

受付日：2024年5月7日 受理日：2024年6月13日

結 果

2022年9月から11月までの間に、患者の6家族10名に対し、本研究への同意を得た上で、インタビューを行った。インタビューで得られた結果から46のコードへ抽出し、11のサブカテゴリー、6のカテゴリーへ集約した(表2)。また、患者および家族の背景を(表3)に示した。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを[]で示す。

- 1) 【緊急入院に対する思い】は[病状への不安], [緊急入院に対する混乱] から構成されていた。
- 2) 【患者の現状に対して抱く感情】は[病気となってからの後悔][患者の現状を受け入れられない] から構成されていた。
- 3) 【回復への願い】は[回復への願い] で構成されていた。
- 4) 【医療者への信頼】は[医療者への配慮], [治療は病院に任せるしかない], [看護師への要望を考える余裕がない] から構成されていた。
- 5) 【面会に対するジレンマ】は[面会したいという思い], [面会制限に対しての理解] で構成されていた。
- 6) 【面会に替わる情報伝達の手段を希望】は[面会に替わる情報伝達の手段を希望] で構成されていた。

表2 インタビューの結果を分析したカテゴリー表

カテゴリー	サブカテゴリー
①緊急入院に対する思い	病状への不安
	緊急入院に対する混乱
②患者の現状に対して抱く感情	病気となってからの後悔
	患者の現状を受け入れられない
③回復への願い	回復への願い
④医療者への信頼	医療者への配慮
	治療は病院に任せるしかない
	看護師への要望を考える余裕がない
⑤面会に対するジレンマ	面会したいという思い
	面会制限に対しての理解
⑥面会に替わる情報伝達の手段を希望	面会に替わる情報伝達の手段を希望

表3 患者および家族の背景

家族	続柄	年齢	同居	患者の性別	患者の年齢	患者の病名
家族A	配偶者	60代	有	男	75歳	急性心筋梗塞
家族B	配偶者	40代	有	男	47歳	肺血栓塞栓症
家族C	長女	50代	無	女	79歳	上気道閉塞
	次女	50代	無			
家族D	妹	40代	無	男	48歳	脳出血
	父	70代	無			
	母	70代	無			
家族E	次女	40代	有	女	78歳	敗血症性ショック
家族F	長男	50代	有	女	80歳	急性心筋梗塞
	配偶者	80代	有			

考 察

家族へのインタビューを通し、[緊急入院に対する混乱]や[病状への不安]という【緊急入院に対する思い】を抱えながらも、状態が良くなって欲しいというような【回復への願い】を抱いていた。

江尻ら¹⁾は「救急・緊急入院の家族は、突然起こった患者の状況や受けている医療の説明を受け、病状の重篤さを改めて認識し、患者が死亡するのではないかと強い不安を抱いている。」と述べている。家族は突然重篤な病気の発症や事故等により危機的状況に陥り救急搬送され、人工呼吸器等で管理している様子や意思疎通が図れない様子を目の当たりにし、今後どう変化するか分からない[病状への不安]を抱いている。これに加え、集中治療を行うICUという非日常的な環境が不安を助長していると考えられる。更に家族は[病気となってからの後悔]を感じ現在の[患者の現状を受け入れられない]状態に陥っていた。その中で、患者の【回復への願い】と共に今後どのような経過をたどるのか知りたいというニーズが見られた。このことから緊急入院に伴い突然の事態に大きな不安を抱え、混乱しながらも患者の回復を願っている事が考えられる。緒方ら²⁾は、「家族員が不確かさの中で回復の期待を持ち続けるためには、医療者からの情報提供に加え、自分自身で患者の状況を把握することが重要である」と述べている。面会制限下の現在、家族が患者の状況を把握する手段はなく、医療者からの情報提供に頼らざるを得ない。そのため、家族の情報のニーズを満たすために医師、看護師を含む多職種間でのコミュニケーションを図り、継続的な情報提供を行うことによって家族の抱くニーズを充足させると共に不安の軽減を図り患者の現状について受け入れられる様に関わっていく必要があると考えられる。

家族から患者の治療に関して病院に任せるしかないという発言から、緊急入院に伴う混乱が生じ、[看護師への要望を考える余裕がない]状態にあることが考えられる。またケアを受けている家族は[医療者への配慮]の気持ちを表しており、【医療者への信頼】を抱いていると捉えることが出来る。これらは、緒方ら²⁾が述べた、「家族員の医療への信頼は、医療への期待であると同時に、信頼しないとやっていけないという窮極の思いでもある」と合致する。患者の状態が変化中、家族は予後の見通しがわからず医療者の言動に気持ちが左右されやすい状況にある。医療者の言動が家族へ及ぼす影響を十分に自覚し、少しでも家族に安心感を与えられるような関わりをもつことが重要であると考えられる。

緊急入院した患者の家族はカテゴリー①で示されたように[緊急入院に対する混乱]や[病状への不安]が強

という思い]を抱いており、面会に対するニーズが強い事が考えられる。しかし新型コロナウイルスの感染が確認されてから3年が経過し、医療機関での面会制限が受け入れられている。そのため入院中の面会はできないという考えが根付き、緊急入院という混乱が生じる場面でも[面会制限に対する理解]が得られており、面会できないことはわかっているが面会をしたいという【面会に対するジレンマ】が生じていた。その中で少しでも安心したいという思いから【面会に替わる情報伝達の手段を希望】していた。小田ら³⁾は「適切な情報提供と患者へのケアの提供は家族にとって安心感を得て希望を持つことにつながっており、今後は面会時間に情報提供を行うとともに家族が患者へケアがされていることを実感し、安心できるように患者や家族の状態を考慮しつつケアを行うことも必要である。」と述べている。面会制限下ではIC等の機会がなければ状態を知ることができないため更に不安が助長されると考えられる。面会に替わる情報伝達の手段を考え実施すると共に、患者の状態や提供したケア内容を明確に伝え患者の存在を少しでも身近に感じられるようにすることで家族に寄り添った看護が提供できると考えられる。

ま と め

ICUへ緊急入院される患者の家族は突然強い不安を抱くこととなる。それに加え面会制限が行われる事で、患者の状態を知ることが出来なくなるため不安が助長される。しかし面会制限についての理解も浸透しており、面会に対するジレンマが生じ、面会に替わる情報伝達の手段を希望していた。家族が抱くジレンマを払拭し、患者の状態を知りたいと言うニーズを満たすため、スタッフ間でのコミュニケーションを図り家族へ適切な情報を提供するための面会に替わる情報提供のシステム構築が必要であり、今後検討していく。

本研究では6症例と症例数が少なく家族が抱くニーズを一般化させるためにはより多くの症例数が必要であると考えられる。また、対象を絞るのではなく緊急でICUへ入院となる全ての患者の家族を比較対象とすることで、今回対象とした患者の家族のニーズをより明確にすることが出来たのではないかと考えられる。

本研究は市立函館病院の研究倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号2022-223)

文 献

- 1) 江尻晴美. ICUへ入室する救急・緊急入室患者と予定入室患者の家族のニーズとコーピング. 日集中医誌. 2006; 13: 437-444.
- 2) 緒方久美子, 佐藤禮子. ICU緊急入室患者の家族員の情緒的反応に関する研究. 日看科会誌. 2004; 24: 21-29.
- 3) 小田浩子, 久保田美緒. インタビューから分析したICU重症患者家族のニーズ. 日看会論集: 成人看I. 2010; 40: 53-55.
- 4) 佐藤啓子. ICUにおける面会制限に関する医療従事者, 患者, 家族の意識調査(第2報)患者, 家族アンケートより. 日看会論集: 看管理. 2018; 48: 43-46.
- 5) 黒岩啓子, 関口亨, 松本美記ほか. 集中治療室入室患者家族への情報提供と精神的援助の評価 Molterの「重症患者家族ニーズ」を参考にした面会時の要望と満足度調査から. 日看会論集: 急性期看. 2015; 45: 194-197.
- 6) 亀山千里, 加藤令子, 井澤伸拓ほか. 急性期の鎮静処置を受けている患者の家族の思い ICU面会時に焦点をあてて. 日看会論集: 成人看I. 2009; 39: 193-195.

The needs of families of critically ill patients admitted to the ICU during the COVID-19 pandemic.

Keiya SONODA, Shiho SATO, Kaori TOYOURA, Yasufumi MYOUDOU
Nanami SATO, Nozomi MIYOSHI, Hirofumi ICHIKAWA
Yoko EIKAWA, Yoko YAMAMOTO

Key words : The COVID-19 pandemic — Visitation restrictions —
Needs Affiliation.ICU

Abstract

Interviews were conducted with family members of ICU patients under intubation management to reduce the anxiety caused by visitation restrictions during the coronavirus pandemic. The needs of these family members were grouped into categories to identify those with a strong need for access and information. It is important for staff to have a common understanding of the family's needs in order to fulfil them. As an alternative to meeting the need for accessibility despite visitation restrictions, showing the actual treatment and nursing care provided to the patient can help families visualize the patient's condition and better understand their needs.

Intensive Care Unit, Hakodate Municipal Hospital